（昭和五年三月廿一日 第三種郵便物認可）
昭和十年十一月十七日〔日刊〕 新いわき 〔日曜日〕第一千六百二十三號 （一）
十一月十六日 夕刊

日刊一ヶ月二十五錢 但日曜祭日翌日休
郵税十五錢一部二錢
廣告料一行四十錢 貳拾錢增
事務所招定
發行兼編輯印刷人 牛谷政亨
發行所 福島縣平町大町二三 新いわき新聞社

厄介物視される 猛烈な陳情運動

上局からでなく町村民の聲だ 石城だけで運動費一萬五千圓 此の出費を誰が負擔する

平小鐵道敷設路線の奪取運動は屢報の如く直通線、片濱迂回線、湯本經由線各關係町村の間に猛烈に行はれてゐるが斯の種の運動は獨り鐵道の場合に限らず近年殆んど當習慣行の樂となり漁港の修築、河川道路の改修、橋梁の架換え其の他事毎に行はれて少數多數の出縣上京等々櫛の齒をひくが如く演じられてゐる而して其の運動費なるものが何れから出るかと云へば勿論町村の公費に負擔され石城郡に於ける同費の如きは一ヶ年少なくも一萬五千圓に上るものと唱ひられ今や漸く其の費と煩に堪えざるものあるをこぼされるに至つた右の陳情なるものに對して曾て內務省の高官であつた某氏の如き客年來平の砌り均等な愛をもつ子供に於ても五月蠅きものに勝たれる例をひき熱心な運動に落城する陳情効果論をさへ敎えられてゐるが斯て果てしなき運動が今後ます〳〵猛烈の度を加へられるものとせば憂慮にたへぬと某有士が左記の如く語つてゐる

吾々の若き頃までは斯うしたことはなかつた地方的に特別な事情を訴へるにしても各當局に任せ官費旅行團見た樣な陳情行列は寧ろ之れを恥としてゐた、縣當局なり政府者がしつかりして居れば運動をしてもせなくても同じい譯である、今日の樣に陳情運動を盛んにやつた所が各關係に其れをやれば結局やらないことゝ同じてゐる、一方が行つて一方がやらずに居れば其當局がしつかりしてゐぬと拔けがけの功名と云ふものがあるので勢ひ運動が猛烈になつたものであらうが眞に困つたものである、之れを廢止するには嚴しい罰則を加へる運動禁止法の樣なものでも設けなければ町村では聽て出費に堪えなくなるであらうと

戸田仁井田堰の爭 サイホンで解決す

大浦の村營で工費四千圓 四萬圓の江筋改修も決定

石城郡小川江筋組合では今十六日午前十時から平町團体事務所樓上に臨時總會を開き既報の如く凶作應急施設工事に就て附議したが右は豫ねて紛爭中の大野村戸田堰と大浦村仁井田堰との合併改設が圓滿に解決し仁井田堰を廢して前記戸田地內に上仁井田及四倉町への通水路をサイホンとなす改良工事を大浦村營に任せ同工費總額四千圓に對し縣補助二千七百圓非補助千三百圓へ小川江關係工事の故を以て二千圓を寄附することに決し尙ほ同組合第三期第一年度及び第一期第三年度工事平窪村地內水路改修費三萬七千百七十圓を施行することに決したが來る十二月早々着工の豫定であると

匡救土木五十萬圓 産業開發は廿萬圓

石城郡の七、八両年度工事に 內務省で書類現地の調査

平土木監督所管內に於ける昭一和七、八年度匡救土木事業は工費一万二千圓の平町側溝及び湯本町の道路新設工一萬五千の如き石城郡下で縣と町村の施行を合せ約五十万圓に達し產業開發工事にありては御殯所街道四萬二千圓、同田塲坂トンネル改修の一萬八千圓を初め二十萬圓に上つてゐる同工事に對して內務省前澤技師、香取屬官來郡去る十三日から十五日まで書類並に現地に就て詳細な調査を行はれ縣土木課から出張の阿部技師、高垣技手及び小林平土木所長の東道說明を受くるところあつたが何れも良好な成績を賞され尙ほ內務省の調査一行は白河から須賀川、會津方面に移る筈であると

今月一杯で締切る 石城の海軍志願兵

横須賀海軍人事部長の念達 無駄な手數を省く樣に

石城郡に於ける海軍志願者は毎年百四、五十名に上つてゐるが明年一月から三月迄の間に檢査を行ふ本年の志願受付締切は今十一月末日限りで平町は既に六名の志願を見てるが右の徵募に就て横須賀海軍人事部長から左記の念達があつた

身長体重胸圍等規格に達せぬ者　思想上面白からず素行修まらぬ惡評の人物は町村に於ても加減されたし

泉及び小川郷の両驛も受賞

平驛が一般事務成績優良で今十六日水戸運輸事務所長から第二回賞を受けたことは昨報したが泉驛及び小川郷驛に於ても成績優良により同樣表彰された

癩病の話〔二〕

大森勇

旅行好きの露伴さんが、里遠しいさ露と寢ん草枕など〻いゝ氣になつて、山に浮かれ水に浮かれて旅から旅へと旅を續けた頃のこと、それは明治二十二年四月の事であつた。中禪寺の奥白根が嶽の下湯の湖のほとりから、奥へ奥へと奥山を登つたのである。もみの木拓の木唐松など生ひ茂りて蔭暗く、雪に印せる鹿兎の足痕も漸く減りて、一鳥啼かず山益々深くなつた。日は冬の淺り易く、露伴さんのうしろからは夕闇は押し寄せて來る。五体綿の如く疲れ果てゝ重い足を引き摺つて歩いたがふとしやれかうべの樣なものに躓いて轉んだなと思つたのだが、遙彼方に燈の光の搖ぐのを見付けたので、嬉しや嬉しやとたとり着けば、丸木の堀立柱笹葦の屋根したる小家火の洩るゝ戸の際に立つて、中禪寺の湯元より峠越して道に迷ふて難儀いたす者一夜の宿を願はれまいかと賴めば、春未だ淺きに驚の樣な聲をして、板戸引き開けて出で來りたるは、年の頃二十四、五と覺しき女、色が皎くて、眼がぱつちりとして、眉つきは長くて柔和で、口元は小さく締つて、美しさは人にあらず、おのれ妖怪かと、露伴さんは三足程退つた位であつた。そはいとお易いこと、いざ茲にお腰かけられよと洗足の湯を持つて來て、御達慮なしに御足お伸し遊せと、問答する暇に指の股の泥まで綺麗に洗つて呉れた。香氣椀に溢るゝ山獨活の味噌汁等々の御馳走になつて、火影ゆらぐ行燈の下に座れば、着物の破綻を繕ひ兵種の選定に就て其の職能任務に充分なる會得なきも豫習せざるもの、學術豫習に偏し身体の修練向上を疎にする者等に注意すること

小學校を卒へても學術の

常識講座

カーニバルは肉謝祭と譯されてる、カトリック敎が四旬祭前に行ふキリストの復活昇天を記念祝福し數十日間ドンチヤン騷ぎをやるので其ドンチヤンの意にも使はれる樣になつた

農銀の溫情支店長 山間部民から感謝

水田小作料を半分にまけて 代りに薪炭を買つてやる

縣農銀平支店では秋繭の高騰で各農村の良好なる回收成績を喜んでゐたところ稻作の冷害に惱む殊に山村方部の窮乏から昨今漸く沈靜を示してゐるが借入申込みに對しては毎日五、六件（金額にして千五圓乃至二千圓位）を順調に進むる一方に於ては悲慘な凶作地に對して伊達支店長自ら其の實況を踏み溫情を以て之れに接し回收難の緩和に盡してゐるので一般から感謝されてゐるが銀行所有田を小作する三坂村某氏の喜びを今十六日支店長にもたらせばニコ〳〵として左記の如く語つた

銀行所有の水田は三坂、澤渡、永戸三ヶ村で二町五反歩ほどある其れを十二名の小作者に作らせて水田によつて多少の差はあるのですが普通二俵半乃至三俵（一反歩に付）の小作料を受けてゐる、本年の冷害減收で小作料を輕減して呉れと云ふから行つて見たところ實際ひどい是では困るだらうと農銀なるもの〻主命を說いて小作料を半分にしてやつたのです、其の上若し金が出來なければ薪炭でもよい平町に持つて來いば損せぬ樣に時價で買つてあげると云つたのです、何れも本當に感謝して呉れましたよ然し彼の慘めさを見てはそうなりますよ、双葉の山村は一層悲慘だと云ふから行つて見るつもりでゐます此際ひどい者には同情せねばならぬ回收が一期位遲れるのは致方ありません、

鐵屑拾ひに 心臟痲痺

小野田の捨塲で

石城郡磐崎村の小野田炭鑛ゾリ捨場下の堀中に昨十五日午後五十才位の男の變死体をゾリ拾ひに行つた者が發見他殺でないかと疑はれたが死者は同郡內郷村の高坂居住古物商紺野光以（五〇）で小野田炭礦林醫師の檢案により死因心臟痲痺と判つたが光以は同所に鐵屑を拾ひに來て倒れたもの〻如くであると

女中のチブス

石城郡上小川村の上小川字横の內草野ちよ方女中鶴田いま（三七）は病氣のため平町磐城共濟病院に入院中であつた去る九日チブスと判り昨十五日同町傳染病院に隔離收容された

落盤で二名死亡

石城郡湯本町の入山炭礦坑夫鈴木由吉（三七）渡邊富藏（三四）兩名は昨十五日午前十時半頃同礦第七坑內で石炭積込み中落盤の下になつて重傷間もなく死亡した、又後山草野末治は輕傷を負つた

あきくちから濃うなるといふ色手管でありませんかと急所を突いた積りの論陣を張れば要らぬ事尋ねて可惜夜の更くるに御休みなされと、戸棚より出すは緋緞子の蒲團、淺黄リン子の搔卷、鬱かるゝ登澤然らばお先へ御免被ると横になれば、蓬萊の夢見さうな雲鶴の錦の丸枕に茶を詰てあるやゆかしき香、鼻の頭に不審が立つてどうも眠られぬ。そつと屏風の外を覗けば、妙さんは端然と座つて讀書の体、はてさて妙さんの素性は何か露伴さんと共に氣がもめる。

産業方面

葱頭栽培法

（12）　石城分場矢ヶ崎生

此の際土寄せの程度は肥料を施した場所を覆ふ程度とし苗の根元に入らぬ様に行ふのである、第二回は濱通り四月上旬頃、中通りは四月下旬頃會津地方は四月下旬頃に第一回追肥の反對側に第一回追肥に準じて行ふ、第三回追肥は濱通り五月上中旬頃、中通り五月中、下旬頃、會津地方は五月下旬頃に第一回に施用した側に極く淺く根を切らない様に注意して施すのである、而しながら根が地表下に一面に蔓延して居る際には耕らずに畦間に流し込みをなし乾燥後極く淺く中耕を行ふがよい揚床、廣畦作りの場合には第一回、第二回、第三回追肥共に流し込みをなし乾燥後中耕を行ふのである、

斯くて葉部は次第に發育し球も共に肥大して來るか粘質地肥沃地又は冬期寒害豫防のため深植えをしたるものは其儘にして置くと葉の發育のみ旺盛となり頸部の緊り惡く結球の發育不良となるを以て根元の土を掻き去り結球の上部を半分近く露出して球の發育を助長せしめるのであるが砂質土の如き輕鬆で乾燥する土地に於ては土掻きを行ふ事によつて乾燥に失し球の發育を害するを以て行はない方が良い、輕鬆地に於ては土掻を行はずとも自然に球の發育に從つて地表に露出して來るものである、土掻きの時期は濱通りに於ては五月下旬頃から六月上旬頃、中通りは六月中旬頃に次へで會津地方なら六月中旬頃である、

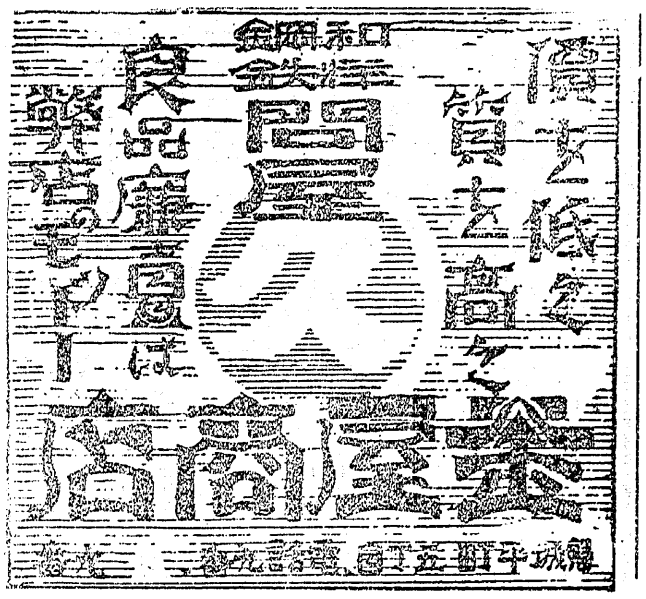
牛も豚も優良品の自慢
肉の御用命は　三三屋　平町田町

しづかに食事の出來る
正しい食堂
正しい喫茶
正しい酒場
平田町レストラン　サロン　電三五二

秋の流行洋品御案内
新柄ショール豊富陳列
ソフト帽とネクタイ多數取揃
優良毛布とパンヤ枕豊富
毛編新型子服とケープマント
ヤルツ　平四一〇　電四一

産婦人科科　外科　醫學博士　木村寅次郎　長
內木宗八
平町新川町九一　入院隨意　病室完備
木村病院　電話一六四番

入院應需　明雲堂眼科醫院　平驛前　電六六九番
自炊の便あり
耳鼻咽喉科專門　醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前　入院應需　鈴木醫院



結核に！
ホシアンチツベルケン
結核恐るゝに足らず!!
「不治の病」とは一種の迷妄——
1.50
1.50
3.00
5.00

「結核豫防週間」
肺結核は年々增加の傾向にあり、結核のために死亡する者は年々十二萬と稱せられ、また死亡までには至らないが、仕事も出來ずブラ〳〵して廢人同樣の生活に陥ちて居る人々を合すると實に約百萬乃至百五十萬人に上る推定である。當局は毎年結核の撲滅と豫防の爲め國民の喚起を促す事に努め、本年も四月廿七日より一週間を結核豫防週間として全國的に持たれてゐるがこの豫防週間を各人が効果あらしめなければならぬ。

肺及び呼吸器疾患
肺病療法の根本は先づ必ず治る、「肺病は不治の病」とは一種の迷妄に過ぎぬことが、今日明になつたのであるからして治して見せると云ふ確固たる信念を固く持つこと、即ち體病の信念をはかり營養物の消化吸收を良くし以て病氣に對する抵抗力を養ふこと、日光浴をすること、日光中の紫外線を最も治療的効果たらしめ、以て之が結核菌を殺し又身體の新陳代謝を能くした上に、これに信賴すべき藥劑をあせらず迷はずに、此の藥なら必ず治ると云ふ信念を以つて服用する、等であります。

ホシアンチツベルケン
に本社が大なる自信と誇りとを持つて居る有名藥の一つであつて結核菌に對する効能と、同時に咳を鎮める効と、輕度の熱を下げる作用とを兼有して居る藥であります。
本劑は肺結核、肺尖カタル、肋膜炎、氣管支カタル、腐敗性氣管枝カタル、に能く効く優秀なる治療藥であり、其他咳を鎮め痰を去り喘息にも奏効藥であります。

肺結核の疑ある人よ！
恐ふことなく、ホシアンチツベルケンに來たれ！

「結核の豫防」と題する呼吸器病治療に關する小冊子あり是非御一讀を奬む、チエーンストアに無き時は本社營業部宛御申込あれ無料送呈す。

全國ホシチエーンストアにあり
クスリはホシ
東京・星製藥株式會社

ホシチエーンストアー平支部
星藥舗　平町三丁目　（電話四二九番）